

第 104 回大腸癌研究会 遺伝性大腸癌診療ガイドライン作成委員会 議事録

●日時:令和 2026 年 1 月 22 日(木)13:00-13:30

●場所:浜松町コンベンションホール

●会場: 第 1-A 会場(5F メインホール A) ハイブリッド開催(会場+Web)

●参加者:〔委員長〕田中屋宏爾〔委員〕山口達郎、平田敬治、山田真善、秋山泰樹、石丸啓、岡本耕一*、隈元謙介、坂元慧*、重安邦俊、嶋本有策*、高雄暁成*、高雄美里*、高見澤康之、竹内洋司、谷口文崇、千野晶子、中島健*、中守咲子*、中山佳子*、檜井孝夫、藤吉健司、三口真司、水内祐介、宮倉安幸、武藤倫弘*、吉岡貴裕、〔金原出版〕片山晴一、宮崎麻衣、〔アドバイザー〕富田尚裕、石田秀行

〔その他の参加者〕浅葉 恵、新井富生、奥川喜永、押野俊大、川副徹郎、佐々木和人、志村匡信、白浜秀也、鈴木陽三、須並英二、高橋佑典、瀧山亜希、谷 優佑、問山裕二、中野 薫、中野麻恵、中村有貴、夏目壮一郎、藤島史喜、藤原麻子、母里淑子、山口瑞生、山田一隆、(氏名判読困難 5 名) 以上、計 59 名

〔欠席〕川崎優子、小峰啓吾、柴田良子、下平秀樹、関根茂樹、田辺記子、張 萌琳、土井 悟、長崎寿矢、蓮見壽史、阪埜浩司、堀松高博、増田健太

●報告事項

1. 前回議事録 委員長から報告があった。
2. 委員名簿 委員長から 2025 年 6 月 23 日時点での委員について報告があった。
3. 会計報告 委員長から、入金として大腸癌研究会からの補助金など、出金として、英語版投稿用の英文校正費用、などが報告された。
4. 2024 年版ガイドラインの販売部数
委員長から 2025 年 12 月 15 日時点での販売数について報告があった。
5. 英語版の進捗状況 委員長から、IJCO 誌に 2025 年 11 月オープンアクセスでオンライン先行公開されたこと、2026 年 1 月に掲載予定であること、が報告された。 資料 1
6. 2028 年版遺伝性大腸癌診療ガイドラインの構想
委員長から、以下の 2 点が報告された。 資料 2
 - 1) 遺伝性大腸癌診療ガイドラインから、リンチ症候群を独立させ、日本遺伝性腫瘍学会が主体となって編集し、大腸癌研究会からは大腸癌領域の委員を推薦・提供する。
 - 2) 2028 年版「遺伝性大腸癌診療ガイドライン」は、「大腸腺腫性ポリポーシス」を中心に大腸癌研究会が主体となり、関連学会等とも連携して、編集する。
7. 2024 年版ガイドラインの引用 委員長から講演・発表などで引用する場合、金原出版社に許可申請が必要で、金原出版のホームページから申請用紙を入手できることが報告された。
8. 日本語版遺伝性大腸癌診療ガイドラインの大腸癌研究会 HP 公開
山口委員から、日本語版の遺伝性大腸癌診療ガイドライン 2024 年版が、大腸癌研究会 HP に公開された(2025 年 12 月 12 日) ことが、報告された。

文責:田中屋宏爾

資料 1 英語版遺伝性大腸癌診療ガイドライン 2024 年版

Tanakaya K, Yamaguchi T, Hirata K, Yamada M, Kumamoto K, Akiyama Y, Ishimaru K, Okamoto K, Kawasaki Y, Komine K, Sakamoto A, Shigeyasu K, Shibata Y, Shimamoto Y, Shimodaira H, Sekine S, Takao A, Takao M, Takamizawa Y, Takeuchi Y, Tanabe N, Taniguchi F, Chino A, Cho H, Doi S, Nakajima T, Nakamori S, Nakayama Y, Nagasaki T, Hasumi H, Banno K, Hinoi T, Fujiyoshi K, Horimatsu T, Masuda K, Miguchi M, Mizuuchi Y, Miyakura Y, Mutoh M, Yoshioka T, Tanaka S, Sakamoto K, Sakamaki K, Itabashi M, Ishida H, Tomita N, Sugihara K, Ajioka Y; Japanese Society for Cancer of the Colon, Rectum.

Japanese society for cancer of the colon and rectum (JSCCR) guidelines 2024 for the clinical practice of hereditary colorectal cancer.

Int J Clin Oncol. 2026 Jan;31(1):1-66. doi: 10.1007/s10147-025-02892-1. Epub 2025 Nov 10.

資料 2 2028 年版ガイドラインの構想

経緯・背景

- ・2012 年初版以来、大腸癌研究会 主体となり、日本遺伝性腫瘍学会の協力を得て、家族性大腸腺腫症（FAP）・リンチ症候群の 2 疾患を中心に編集
- ・リンチ症候群に関しては、1）婦人科、泌尿器科、上部消化管、胆膵領域、皮膚科など、多診療科関与、2）がんゲノム医療の進展や、多遺伝子パネル検査などからも診断、3）臓器・診療科を横断する包括的マネジメントの普及、など、大腸癌領域の枠を大きく超える拡がり

新たなガイドラインの構想

- 1) 「リンチ症候群ガイドライン」を独立して作成。
 - ・日本遺伝性腫瘍学会が主体となり編集、大腸癌研究会は大腸癌領域の委員を推薦・提供
 - ・2025 年 8 月 大腸癌研究会 味岡洋一会長 と日本遺伝性腫瘍学会 平田敬治会長が合意
- 2) 次版「遺伝性大腸癌診療ガイドライン」
 - ・家族性大腸腺腫症を含む「大腸腺腫性ポリポーシス」を中心に、大腸癌研究会が主体となり、関連学会等とも連携して編集
 - ・リンチ症候群の記載（刷り上がり 4 ページ以上）